

2024年4月20日発行

第40号

令和6年

東都岩高会

発行所

長野県岩村田高等学校同窓会関東支部

東都岩高会

〒106-0045 東京都港区麻布十番4-3-1-1081

TEL : 03-3451-2298

Email : 7249lece@jcom.zaq.ne.jp

東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・群馬・栃木

岩村田高等学校創立100周年



東都岩高会

総会

&

懇親会開催

● 2024年6月23日(日)

11:00~受付開始 11:30~開会

● 銀座ライオン

7丁目店6Fクラシックホール(銀座シックス隣)
中央区銀座7-9-20 電話03-3571-2590

● 会費: 8000円

学生(専門学校、予備校含む)は無料
同封のハガキでお申込み下さい。尚、学生は下記のお問い合わせ先へ。(~6/10迄)
会費は当日受付でお支払い下さい。

● 講演: 寺尾文孝様(昭和35年卒業)

テーマ「闇の盾」出版にあたって

● 総会: 2023年・2024年の報告・承認・審議

● 懇親会: 美味しいビール(未成年はノンアル)と料理を愉しみながら、懐かしい顔や新たな出会い!先輩・後輩・先生等が入り交じり交歓の輪、最後に校歌を皆で唄い盛り上がり♥

お問合せ等: tanaka-nsym@s5.dion.ne.jp

小林 080-7021-3097

田中 090-7171-8441



創立100周年 記念式典・祝賀会

2024年10月5日(土)

■ 記念式典・記念コンサート

(午後2時から)

・ 場所 長野県立武道館
佐久市猿久保165-1

・ 出演者 森山良子さん



(実行委員以外の方は申し込みが必要です)

■ 祝賀会 (午後5時から)

・ 会場 佐久一萬里温泉ホテル
佐久市中込 3150-1

※詳しくは岩高同窓会 HP をご覧下さい。

ご挨拶

東都岩高会会長

小林

裕

(昭和47年卒業/港区在住)



はじめに、一月一日に起きた能登半島地震でお亡くなりになられた、240名を超える方々のご冥福を謹んでお祈りいたします。また被災された多くの皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を願っております。

さて東都岩高会会員皆様には、お元氣でお過ごしのことと存じます。日頃、当会活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

令和2年(2020年)年初より始まった新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、ようやく感染症法上の分類が令和5年5月8日「2類相当」から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられました。まだまだ感染防止に注意は必要ですが、多く人が集まるイベント開催が可能となり、昨年6月18日(日)「ライオン銀座7丁目店 6階クラシックホール」にて4年ぶりに、東都岩高会総会・懇親会を皆様のご協力で開催することができました。

一方ロシアによるウクライナ侵攻は2月24日で2年が経過してもなお、その激しさは増すばかりです。また、イスラエルとパレスチナのイスラム組織

ハマスの軍事衝突は、市街地が攻撃され、多数の子供を含む一般市民が戦闘被害に巻き込まれています。

日本国内に目を転じると、政治家の派閥による政治資金規正法違反、大手自動車メーカーグループの性能試験不正、大都市圏を中心とした年間1万9千件にも及ぶ特殊詐欺拡大など、いろいろな世の中はようになっていっているのですね。私事で恐縮ですが、この1月の土曜日午後、特殊詐欺の実体験をいたしました。港区役所の国保年金課の職員を名乗る者から、累積医療費の還付に関する申請書を送っているが、期限までに提出がなかった。今からでも間に合うので、至急還付請求を出すように……との内容でした。取引銀行を聞かれ、銀行名を言うと、銀行より改めて連絡するとの事。後日、区役所に問い合わせると、特殊詐欺であることが判明しました。実被害がなく本当に良かったと思います。

こんな世間ですが、びっくりするような女性の活躍が新聞をにぎわしています。客室乗務員出身の某有名航空会社次

期社長就任、某野党の委員長就任、法曹界では、日本弁護士連合会の次期会長就任です。いずれも長い各歴代の長の中で、女性の就任は初めてとの事です。日本も大きく変わってきたと実感いたしました。

この中でも、某野党の委員長は私と同じ小諸市出身で、野沢北高校卒業の方です。

東都岩高会にも、女性役員を何とか増やさなければ先行きが案じられると感じます。

令和6年度東都岩高会総会・懇親会を6月23日(日)いつもの「ライオン銀座7丁目店 6階クラシックホール」にて開催します。会員の皆様には是非ともご参加の程、お願い申し上げます。本校同窓会より、佐々木正行同窓会長をはじめ大勢参加いただく予定にしております。若きあの頃に戻って校歌や学生歌「大浅岳」で盛り上がりましょう。

今年が岩村田高校創立100周年を迎えます。10月5日には、記念式典、コンサート、祝賀会が地元で開催されます。伝統ある岩高同窓生として誇りをもって、久しぶりに歓談しようではありませんか。東都岩高会としても多くの会員の方々に参加いただけるよう、現地集合現地解散で、1泊2日のツアーを企画中です。ご期待ください。詳細は、本誌ご案内ページをご確認ください。

ところで婚活はマッチングアプリで、作文や論文の作成は、生成AIやチャットGPT任せの安易にテクノロジに頼りがちな社会ですが、より人間らしく実際に対面して多様な方々と交歓しようではありませんか。

岩高同窓生という年代も仕事も趣味も価値観も違う人が集う貴重な場です。最後に私の今年の目標は「大いに笑って過ごす」です。総会・懇親会で大いに話し、大いに笑いましょう。もちろん東都岩高会活動に対する、ご意見・ご希望もお待ちしています。

◎令和6年度(2024年度)東都岩高会の主な活動は次の通りです。

詳細は、ホームページ(長野県岩村田高等学校同窓会)をご確認ください。(必要に応じ、ご案内等適宜掲載しております。)

- ①会報発行 令和6年4月20日
- ②総会・懇親会開催 令和6年6月23日(日)
- ③創立100周年事業 本校同窓会と連携して活動
 - ・令和6年10月5日(土)記念式典・コンサートIIおよび祝賀会への参加
- ④長野県高等学校同窓会東京連合会(通称・同窓連) イベントへの参加
- ⑤会活性化(特に女性会員、若手会員の参加) 推進

令和6年(2024年) 祝 母校創立100周年
ご協力よろしくお願いいたします。

今年、創立100周年

岩村田高校同窓会長

(昭和40年卒業 / 佐久市平賀在住)

佐々木 正行



東都岩高会第40号の原稿依頼が昨年11月末に来ました。

3〜4年前に早めに原稿を完成させようと思いい年内に発送しました。年が明け1月下旬になった時、日本全体の様子が変わり原稿の文章の内容が全く合わなくなり再度書き直しをしました。

今年も全くその通りで1月1日午後4時40分の能登半島大地震で全ての報道(テレビ、ラジオ、新聞等)がひっくり返りました。いつもならお正月番組で殆どが芸能人のお笑いか映画、ドラマでしたが震災の実況報道一本になりました。

災害に遭った方々には心よりお見舞い申し上げ、国民全体で今迄の生活に早く戻るよう支援しなければと思えます。

岩高においては今年10月5日(土)に創立100周年記念式典を行います。募金が計画した7500万円の目標に達していません。この原因は何かと考えた時、周囲に既に同窓会が続かない高校がはじめている状況になりつつあることに思い至ります。

少子化のなか、白田高校、北佐久農

業高校が既に佐久平総合技術高校となつて新しい同窓会となり、又4年後には野沢北高と野沢南高が統合され名前が変わり現在の同窓会はなくなる方向です。

私達岩高も工業科が佐久平総合技術高校へ移り普通科だけとなりましたが、岩高の工業科に入学された方も同窓会員です。その皆様もどうか創立100周年記念にご協力を賜りたくお願い申し上げます。

募金に関しては早めにPRした事、又期日が長かった事、弱腰でやさし過ぎた事等々、前倒して記念事業を開催した事もあり、創立100周年記念募金が既に終わったと思われる方もおられるようです。

昨年6月に記念コンサートI・7月に記念講演会Iも行われ、既に支払いも始まっています。在校生の為、今後入学する未来の子供たちの為に創立100周年にご支援の程お願い申し上げます。

記念式典は10月5日です。募金は今年の6月末日まで。宜しくお願ひ申し上げます。

ご挨拶

岩村田高校校長

下島 浩伸



東都岩高会の皆様には、日頃より、母校の教育活動にご支援をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

昨年6月に東都岩高会の総会に参加させていただきました。同窓生の皆さまと岩村田高校の思い出と卒業後の貴重な社会経験等をお聞きし、楽しく過ごさせていただきました。8ヶ月余が過ぎました。その間、本校では感染対策に配慮しつつ7月には文化祭にてカーリング選手(SC軽井沢クラブ所属)による100周年記念講演会、全校合唱コンクール、10月には新役員を決める立会演説会が一堂に会して行われ、お互いの表情や反応を見ながら、全校生徒を前にして緊張感をもって発表する場面も戻ってきました。そうした発表会の中で、2月2日に行われた1、2年生の「探究成果発表会」をご紹介します。

高等学校では、授業内容(教科・科目)や扱う時間(単位数)を定めた国の基準「学習指導要領」に基づき入学年度ごとに教育課程が編成され、本校でも3年前から「総合的な探究の時間」が教育課程に導入されました。「総合的な探究の時間」は、自己の在り方や生き方を考えながら教科の枠組みを越えて、自らの興味や関心、疑問を社会

との関係や進路などと結びつけ、情報を集め、整理・分析してまとめ、表現していく学習でもあります。

今回の発表会でグループごとに取り組んだテーマも多岐にわたり「子供の発達と遊びの多様性」「デザインにおける影響力」「野生動物とのすみわけ」「日本経済の歴史と未来」「岩村田商店街の復活」「家電とAI」など、テーマ設定理由そのものに興味を引かれるものでした。一方、表現していく学習では、知ること(知識)、分かること(理解)に加え、自己の考え方を他者に伝えること、その方法も大切とされ、そうした学習の中でテーマに対する学びが更に深まっていくことも意図しています。

昨年の東都岩高会の総会では、行政や企業の商品開発など様々な分野に携わってきた皆さまの貴重な経験をお話しいただく場面も多々ありました。創立100周年を迎える本年を契機に、在校生との学びの繋がりも深まることを願うものであり、今後とも本校の教育活動にご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。なお、今回ご紹介した取組みの様子は本校のホームページにも掲載してありますので、ご覧いただければ幸いです。

2023年

東都岩高会総会&懇親会

4年ぶりに開催！

6月18日(日) 受付開始 11時～

開 会 11時30分

銀座ライオン7丁目店 6Fクラシックホール

コロナ禍で四年振りの開催となつた東都岩高会総会&懇親会は2023年6月18日(日)に銀座ライオン7丁目店6Fクラシックホールで開催されました。上京間もない2人の新卒業生から60人弱の多彩な会員等が一堂に会し、コロナ明けの久しぶりの再会を喜び合いました。

司会は前半の総会は大塚忠本副会長(S47卒)、後半の懇親会は井出袈裟衛本会理事(S39卒)の明解かつ名調子でありました。

まず小林裕本会会長のご挨拶があり、講演は清水光男本会顧問(S31卒)と田中伸明本会副会長(S48卒)による東都岩高会の昭和5年以来的の94年間の「東都岩高会のあゆみ」の説明でした。

来賓は学校から下島浩伸校長様、同窓会担当飯田和紀様(S60卒)、本部同窓会から会長の佐々木正行様(S40卒)、同副会長の井上隆様(S

51卒)がご臨席され、各々からご挨拶を賜りました。

決議事項は選出された柏木慶永本会顧問(S40卒)議長のもと滞りなく済み、休憩の後はお待ちかねの懇親会です。若い山本貴大さん(H28卒)の元気のいい乾杯音頭で始まり、美味しいビール・ノンアル等と沢山の料理・・・席入り乱れての大交歓会です。

その間、「まんが日本昔ばなし」で有名な小林三男画伯(S39卒)から風墨画を4枚寄贈して頂き、新人等にプレゼントされました。

最後に全員の校歌と「大浅岳」の合唱で盛り上がり、中締めは今回分り易いパワーポイント/スクリーンでご尽力された萩原明本会理事(S44卒)でした。

またお会いしましょう!!





「楽しい色鉛筆の世界」

（昭和40年卒業）
所沢市在住）
柏木 慶永



最近、色鉛筆画に挑戦しています。

子供のころから絵を描くのが好きだったことから、岩高では音楽班と美術班を掛け持ちでやっていました。（もともと音楽班が主体でしたが……）。社会人になってから油絵を少々描いていましたが、仕事が忙しかったうえ、今ひとつ乗り気でなくなつたせいもあり、このところ絵筆に手がいきません。

ところが70歳に手が届くころ、知り合いの方から色鉛筆の話聞き、面白そうだと飛びつきました。その方は通販会社・フェリシモの広報担当で、「うちの商品に500色の色鉛筆があるのでも、使ってみませんか」と声がかかりました。値段は何と5万円以上という。そんな高価なものだから、買うかどうか、大いに迷いました。でも500色の色鉛筆など見たこともないので、折角の勧めだからというわけで、購入しました。

毎月1セット20色が送られてきます。

季節や風景など25のテーマに分かれて

いるので25回にわたつて届けられます。同じ色でも微妙に違うために500にもなっているそうです。確かに同じ赤系でも数十色あります。並べてみると新たな世界が見えてくるような気がします。使ったことがありましたが、塗り絵などが中心だったように思います。

というわけで一念発起し、腰を据えてやろうと、新たな趣味として色鉛筆画が加わつた次第です。ただ私は色鉛筆画の通信教育や関連の本などに頼らず、あくまで自己流です。ですから基本から勉強した色鉛筆画ではありません。でも「趣味というものは自分が満足すればいい」というのが、自分の考え方なので、上手い下手は関係ありません。もちろん少しでも満足は行ける絵を描きたいという向上心は必要です。（描いた絵を添えました）

さて色鉛筆について記してみましょ



う。まず何本セットがあるか。一般的

に1セットが12本、24本、30〜36本、60〜80本、100〜150本だそうです。500本がいかに多いかがお分かりだと思えます。その中で価格的に手ごろで、色鉛筆の良さが味わえるのが30〜36本だそうです。初めて本格的に

取り組むには良いようです。

また性質としては油性色鉛筆と水性色鉛筆がありますが、色鉛筆は一般的には油性を指すそうです。水性は芯が水に溶けるため、描いた色を水で濡らすと水彩のようになり、色鉛筆の良さがなくなる。芯が硬いため油性と比べると描き心地が硬く、サラツとした薄塗りの印象になると言います。対して油性は描く心地が滑らかで濃い色が塗れるので、やはり油性の色鉛筆がお勧めです。



では色鉛筆の銘柄にはどんなものがあるのか、ネットで調べてみました。やはり世界的なものも高級品です。もちろん日本のメーカー品も高級志向が強くなっており、良いものがあります。人気No.1はファーバーカステルの「ポリ

クロモス」(ドイツ)、リーズナブルで
 買いやすいのがターレンスの「ヴァン
 ゴッホ」(オランダ)、世界最高品質の
 カランダッシュの「ルミナンス」(スイ
 ス)同「パブロ」、ダーウエントの「プ
 ロカラー」(イギリス)、同「カラーソ
 フト」、色の濃さが人気のサンフォー
 ドの「カリスマカラー」(アメリカ)な
 ど色々あります。

国産ではホルベインの「アーティスト」、
 トンボ鉛筆の「色辞典」、三菱鉛筆の
 「ユニカラー」、同「ペリシア」などが
 あります。ホルベインは海外の色鉛筆
 のような鮮やかな発色の特徴。三菱鉛
 筆のユニカラーは日本の代表的な油性
 色鉛筆で、日本製のバランスの良い色
 揃いと使いやすいケースが人気。ペリ
 シアは国産最高級で全36色と少なめだ
 が、描き心地は滑らかでギフトにも最
 適だそうです。

少し宣伝気味でしたが、たかが色
 鉛筆されど色鉛筆でしょう。これら
 の色鉛筆はセットの本数で価格は異な
 りますが、数千円から3万円くらいと
 結構高いものです。とはいえ趣味は自
 分が楽しく他人に迷惑をかけなければ
 良いわけです。岩高会の皆様に興味を
 持っていたただければ幸いです。

創立100周年募金のお願い

岩村田高等学校創立100周年記念事業実行委員会

実行委員長 佐々木 正行

募金委員長 井上 隆

東都岩高会の皆様には、岩村田高等学校創立100周年記念事業募金活動にご協力を賜り深く感謝申し上げます。

令和5年4月1日から開始いたしました募金は、思うように入金が進まず、予定額の60%程度にとどまっております。現状を鑑みて、記念事業実行委員会では事業の見直しを行い、学習環境整備事業、クラブ支援事業を中心に削減、凍結する対応を行っていますが、出来るだけ当初の計画を実現し学びの環境を整えたく考えております。

募金期間は令和6年6月30日までです。まだ、ご入金されてない皆様は是非ご協力いただけますようお願い申し上げます。また、既にご入金された皆様も状況をご理解いただき、追加協力いただけますと幸いです。

入金方法は、振込の場合

振込先：八十二銀行 岩村田支店 普通預金 口座番号946721

受取人：長野県岩村田高等学校創立100周年記念事業実行委員会

*お手元に届いている振込用紙がある方はその用紙をお使いください。

オンラインの場合 長野県岩村田高等学校同窓会公式ホームページ(URL：<https://www.gansou100.jp/>)の100周年事業募金をクリックいただき、オンライン募金をお願いいたします。

ご不明な点がございましたら、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

担当 創立100周年記念事業実行委員会

事務局長：池田 義則、事務局員：佐々木美由希

電話 0267-78-3797 Fax 0267-78-3798

E-mail s-gansou100@ce.wakwak.com



丸子電子機器工場

「安全・安心・信頼」をキーワードに
 社会に貢献いたします

長野計器株式会社

代表取締役社長 佐藤 正継 (昭和48年卒業)

相談役 依田 恵夫 (昭和40年卒業)

本社 〒143-8544 東京都大田区東馬込一丁目30番4号

代表 TEL 03(3776)5311 FAX 03(3776)5320

ホームページ <https://www.naganokeiki.co.jp/>

日本画家を志して

柳沢 正人

(昭和49年卒業/世田谷区在住)



岩高を卒業して半世紀が経ちました。思春期の三年は長く、その後の時の流れはあつという間という感じです。云

うまでもなく岩高は山に囲まれた雄大な地形にあり、中でも浅間は幼少期から高校を出るまでの私の人間形成に多大な影響をもたらしました。噴火の爆音と振動、もくもくと上がる黒煙に授業を中断して見入ったことを覚えています。学生歌「大浅岳」に歌われたとおり、将来何処にいてもこの活火山の

ように燃え滾る思いを忘れずにいよう。青雲の志し、かくあらん」と胸を震わせたものでした。

さて私の高校時代は部活動に汗を流したとか勉強に精を出した訳でもなく、又文化祭も体育祭も修学旅行も何故かこれといった語れるだけの思い出がありません。ただ目立たない生徒だった気がします。幼い頃から絵が好きで当時から目標にしていた芸大受験の為に美術室に籠って、ひたすら石膏デッサンと油絵制作に明け暮れていました。暗いとおもわれるかもしれませんが、芸術はやはり個の作業であり、当時の私にとっては目標に向かって進む為の唯一の手段だった気がします。

は周りを笑わせていました。又、中学での岩高出身の先輩日本画家鈴木公人先生との出会いも高校での笠井先生との出会いと併せて、その後の私の方向を決める出来事だったと思います。

そして私は東京芸大の日本画科に進み大学院を出てから、私立成城学園の教師として九年間勤めました。クラス担任も任されていたことで時間的な制約から画業との両立が大変でした。

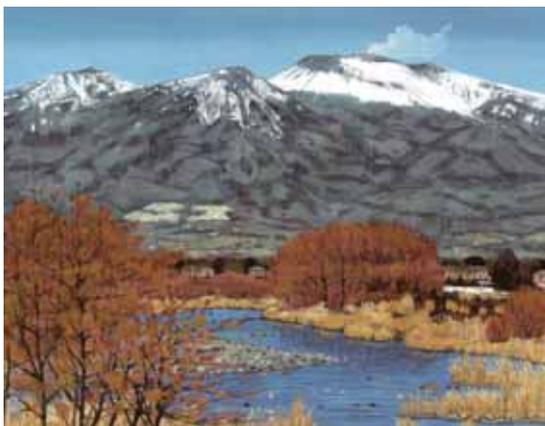
学校で遅くまで仕事をして帰ってからの時間を絵に充てていました。教職で拘束され捻出した時間の中で集中して絵を描く、敢えて限界状況や逆境を自分に課し、それを乗り越えるときに出来るものこそ真の芸術だと、生意気にもそれがハングリーアーティストだと思いつ込んでいました。今振り返るとこの時期は様々な出会いもあり、社会勉強が出来た充実した日々だったと思います。

その後教職での役職も増して物理的に両立が困難に思えて、三十四歳で絵一本に絞る決心をして教職を辞しました。

その翌年に五島記念文化財団から美術新人賞を頂き、同財団の助成でイタリアに留学することになります。彼の地で数千

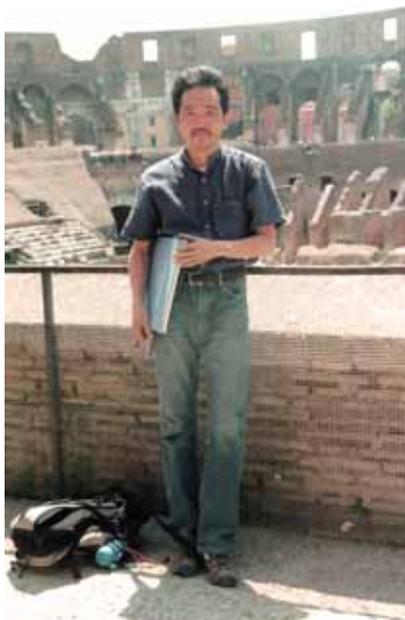
高校に今はひたすら感謝の日々です。

私も未だ道半ばと思っています。私の芸術の基礎を作っていたいただいた岩村田高校に今はひたすら感謝の日々です。



浅間雪景 100号

その頃まず思い浮かぶのは美術科の教諭であった笠井治先生の事です。先生は芸術家というより、それを越えた独特な雰囲気を持った方で、自分を見て何かを掴み取れとでも云わんばかりの名物先生でした。その存在感は他にないものがあり、いつも冗談を言っ



ローマにて

高橋和久様より 東都へ100万円のご寄附 感謝状をお届けしました

東都岩高会会長 小林 裕

会計担当副会長より、「会の口座に100万円が振り込まれました。」との報告。ええ、ほんとにーと心の声。なかなかの間違えじゃないよねえ。さつそくご自宅へ電話を入れさせていただき、本当に「東都岩高会への寄付」であることが確認できました。

佐々木正行同窓会長に連絡。すぐにお礼に伺い感謝状をご自宅へ持参するように・・・とのお話です。

その会員のお名前は、高橋和久様。旧中学校第21回（昭和23年卒業）埼玉県在住。



戦後の混乱期に大学を卒業され、お父様はお医者様を希望されたようですが、海上自衛隊に入られ、江田島の幹部候補生課程を修了後、主に飛行機や艦船の装備品調達を専門に活躍されたようです。また平成の中頃には、東都岩高会会報にたびたび寄稿されております。

今年は暑さが長く続きましたが、驚異的な暑さの真ただ中8月5日 清水光男 顧問とともにご自宅を訪問しました。奥様を長年自宅で介護され、事情により施設に移られたとの事。おひとりでの生活ながら、木刀での鍛錬を欠かさず、大変お元気な様子でした。

剣道は中学から始められ、3段の腕前の事です。応接室の壁に貼られた、奥様との山歩きの写真。お話を聞き、アルバムも見せていた



だきました。例の百名山を中心に、関東、中部、奥州の山々は、ほとんど登られたようです。

お子様二人は、東京で立派にお暮しになっておられるようです。いただいた寄付金は、本会発展のために活用させていただきます。

笑い話ですが、お土産に銀座NAGANOで信州の特産品と、安曇野の日本酒を購入しお渡ししたのですが、高橋様のご本家は、何と、「佐久の花」の醸造元との事です。帰りは最寄り駅近くまで、車で送っていただき感謝です。益々お元気で過ごしてください。ありがとうございました。

内外国特許・実用新案・意匠・商標(地域ブランド)・出願・審判・訴訟・鑑定

INTERNATIONAL PATENTS DESIGNS TRADEMARKS

大塚特許事務所

弁理士 大塚 忠 (昭和47年卒業)

〒105-0012 東京都港区芝大門2-12-6 ダイアパレス10階

TEL : 03-5472-5851 FAX : 03-6430-7851 E-mail : otsuka-p@ka2.so-net.ne.jp

世界一周クルーズ記

小山 駿二

(昭和35年卒業 / 巖市在住)



〈コロナ禍での出航〉

コロナ禍で二度の延期があり、2023年4月7日なんとか横浜港から出航することが出来ました。待望の船の旅、初めての経験、不安と期待が入り混じり心も躍った。

乗船には直前の厳密な検査が有り、陽性であれば乗れませんでした。最初の寄港地はフィリピンのマニラでした。三日間の停泊、皆解放感の中で観光に繰り出しました。ご存じのように日本と違ってマニラは衛生面が悪く、これは駄目だなと感じました。私の勘の通り帰船して4・5日後、私と行動を共にしていた小澤さん、梶さんともども陽性で隔離されました。お二人が隔離された次の日、私もバリ島観光から帰ると熱が出てダウン、隔離部屋は予備の部屋へ二人で押し込まれ、治療せず6日間過ごすと自動的に開放されるという訳です。まるで監獄に居る様でした。正式な発表はないのですが、60人程が罹った様です。隔離部屋は5

階に有り、ドアの外を見ると、ズラッと食事セットが並んで居り壮観でした。まさに尻抜け状態、一カ月後皆開放され、何事もなかったかのように普通の生活に戻った訳です。もう怖いものなし、といったところでした。

〈参加人員、規模、人との出会い〉

通称「ピースボードボヤージ114」と呼ばれ、114回目の出航でした。今回の参加人員は約1400人、八割が日本人、その7割が70歳以上で、高齢者は98歳、ビックリしました。まさに「老人ホーム」でも皆若々しく澆刺としており、行動力は抜群だと思えました。船の大きさは全長350m、14階建、7・7万t、満員では2400人、スタッフ800人です。

最初の出会いは小澤文穂さんでした。彼は松商学園の出身で歳もほぼ同じ、ウマも合いすぐに親しくなり、帰るまで108日間ずっと行動をともにすることとなります。

それから一番の関心事は食事です。14階はバイキングの会場、24時間いつでも食べられ、約500人程度が利用出来ます。もちろん喫茶も兼用です。そして六階はほぼ洋食レストランで、朝・昼・ディナーと予約なしで楽しむことが出来ます。4人から8人程度の席でその都度人が変わり、新しい方と会話が出来ます。それが楽しみでもあり、出会いに繋がるという訳で、これが船の良さだと思います。

〈船内での過ごし方など〉

当然ながら行程の3分の2は船内に居り、その過ごし方が大事なのですが、今回の一番の行事は、船内屋上での日食観測でした。4月20日インドネシア沖の東ティモールの南海上で、完全な金環日食を観測しました。瞬間的にあたりが暗くなり、初めての経験で本当に感動しました。そして運動会、盆踊り大会などが人気がありました。屋内では文化人、評論家の先生の講演、高橋和夫先生やら、芸能人では東ちづるさん等の講演がありました。もちろん映画もありました。それから船内新聞が毎日発行されます。その日の行動予定が立てられる訳です。そこにはダンス、ヨガ、卓球などスポーツ、又各種教室、例えば水彩画教室、ギター教室、

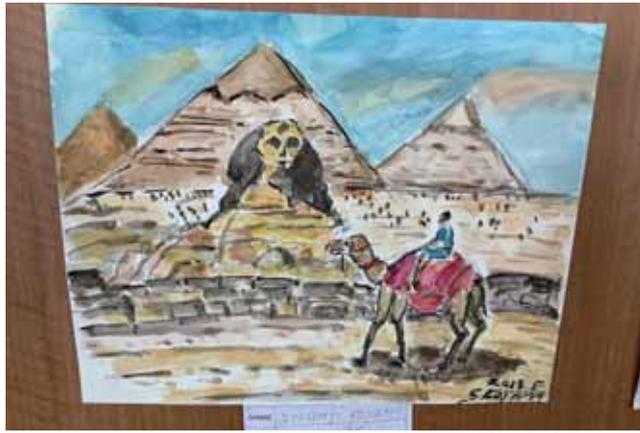


乗船したパシフィック・ワールド号

カラオケ教室、英会話教室、麻雀、囲碁、将棋等があります。

又、自主企画と云って得意な分野で仲間を募っての仲間作りの活動などが盛んでありました。ちなみに私の一日は、朝体操して講演会を聞いたり、囲碁を楽しみ、卓球をしたりします。夜は映画観賞、その後仲間5、6人が喫茶で「ダベリ」ます。そして11時頃部屋へ戻るとい訳です。

色々な大会が催されます。卓球大会として囲碁大会では私も参加して韓国の方を破り優勝いたしました。ちなみに

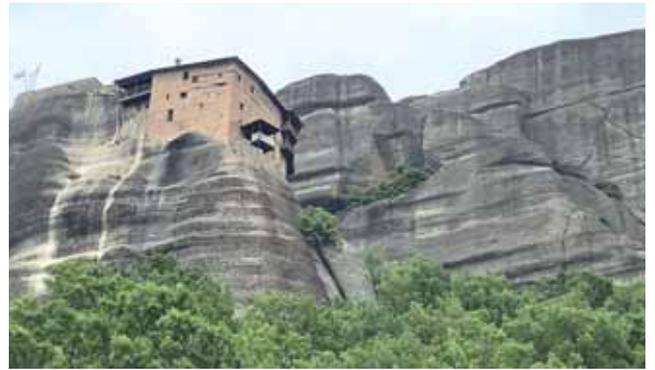


私の下手な絵

に私はアマチュア自称七段、少々自慢話になり申し訳なし。そして各教室で習った成果の発表会が2回開催されました。皆この短期間でこんなにも上手くなるんだと羨ましく思いました。これが見たい為に何度も乗船される方も多いと聞かされました。

〈寄港地のコースと観光〉

当然ながら、寄港地の観光が主なのですが、今回のコースを記すと、フィリピン、インドネシア、シ



マテオラの巨岩上の修道院



パナマ運河横断中

ンガポール、スリランカ、エジプト、ギリシア、イタリア、スペイン、フランス、英国、ノルウェー、アイスランド、パナマ、グアテマラ、メキシコ、ハワイの16カ国、22の寄港でした。ほとんど行ったことがなく、初めての観光で期待に胸を膨らませていました。寄港地周辺の観光はバスやタクシーで廻るのですが、もうひとつは、オーバールンドツアーと云います。私の体験のツアーで説明しますと、エジプトのポートレイト港で船と別れ、ピラミッド、カイロ博物館観光し、飛行機でアテネ着、パルテノン宮殿観光をして、次の日、北部のカランパカのメテオラ観光。ここは巨岩の上に修道院が



スパーバル諸島

で最も印象深いのはノルウェー領のスーパーバル諸島でした。北緯78度に位置し、すぐ北は北極。白熊が生息し、建てられており、400年前から修行の場としての歴史があり、世界遺産となっておりです。その景観は見事であり壮観、言葉に表せない感動があり、印象に残った観光地と言って良いと思います。そして四日後ギリシアのピルウス港で船に合流した訳です。その他モンサンミッシェル、サグラダファミリアなど印象に残った観光地は沢山ありましたが、なんとと言っても今回

行った時はほぼ夏でオーロラは見られませんでした。白夜で24時間明るいため船の中でも貴重な体験でした。又アイスランドは今でも火山活動が活発で、温泉が沢山あり、又地割れも進行中で一年に約3〜5cmの割れの広がりがあるそうです。そこを散策して何やら不思議な感じがしました。

そしてパナマ運河で大西洋から太平洋へ横断しましたが、水量を上げ下げする仕組みはとも感動的、そこには日本の技術が生かされているとのこと、誇りに思いました。その後グアテマラのコーヒー園、テキーラのメキシコ、そして最後はサンセットクルーズのハワイ、百八日の旅を堪能しました。長いような短い旅でした。

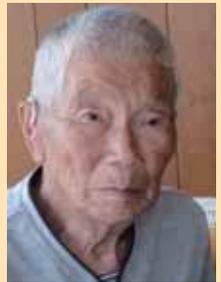
この船旅の一番の良さは、まずゆっくりできること、旅の中で沢山の方と交流し、知り合い親しくなることです。日本に帰ってから、私の仲間は昨年11月に初島で再会しましたが、14人が集まり懐かしさと楽しさを味わいました。これが船旅の醍醐味だと皆が言っていました。

偶然でしたが、岩高を卒業された星野直人さん（S38卒）と出会いました。彼は歌や俳句仲間を作り、そのリーダーとして活躍されて居ました。皆さんも乗ることをお勧めします。

岩高の証言

進学ピーク、新旧の学制、共学化、民主化(生徒会、教師と生徒)等(その2)

小山 米治郎 (昭和26年卒業/上田市在住)



◆編集委員より

本校の百年誌の制作に向けて集めた証言です。余りに面白い一方、長い文章なので百年誌には要約を掲載するものの全文を掲載出来かねましたので、昨年と今回の2回に分けてここに全文を掲載致しました。

執筆の小山米治郎先生は戦争末期の昭和20年に旧岩中に入られ、引き続き戦後に初期の生徒会長を務められ、岩高の第3回生として昭和26年に卒業後、東大教育学部を卒業され、その後県下の高校の社会科教師として教育現場を長く務められました。昨年の記事では、本校の進学実績は新制では戦争直後の昭和27年頃がピークで東大3名(東大合格に限ってみれば)でした。当時は戦争末期から終戦で学制が旧制から新制に代わり、平和憲法と民主化に伴う生徒会の創設や岩村田城戸丘高校(旧岩村田高女)との統合による男女共学化等の大変革期でありました。その多くが上からの変革であったこともあり、当時の社会も学校も生徒も混乱し当惑しつつ理解に努め概ね歓迎

の意識で対応したようです。

ここで驚かされるには、当初粗削りながら自治・民主制には、現在以上に原則に忠実な制度設計や運営に努めていたことです。皆情熱を以て意識も高かった：では何故その自治・民主制度は色褪せてしまったかの議論はさて置き、以下の「証言」も極めて興味深いものとなりました。

◆小山米治郎さんの証言(後半)

1、生徒会について

生徒会長になった最初の月(7月のこと)

6月末、立候補した訳ではないのですが会長(9月~12月)になりました。自由記名投票で私の名前が一番多かったのです。この月で覚えていることは二つあります。

東信予選で好成績を残した陸上部の選手を県大会に送る壮行会に会長として激励の言葉を述べた事。他の一つは生徒会の本部役員(内島君は常任委員として残りました)5~6名が職員会に呼ばれました。大草校長から「これからの岩高は学校側と君たち生徒が力を合わせて良い学校

にして行きたい。そのためには君たちの意見を多く聞きたい。我々に對する希望を遠慮なく言って欲しい」と。さすがに生徒会役員全員緊張して発言なしの状態が暫く続きました。遂に校長から来ました「小山君どうかね」。特にこれという要求もなかったのですが、とんでもない発言をしました。具体的には少し・・・

中学入試の折の面接時より野球監督だった山浦先生から後で云われました「小山、お前卒業しても学校に来るな、先生たちの評判悪いぞ!」と。私の発言内容については脇に置きます。しかし職員会に生徒が呼ばれ、意見を求められること自体が、矢張り時代の民主的風潮の然らしめるところであつたと、現在も思っております。

・9月の運動会のこと

プログラムと経費・兎に角、民主主義。生徒に全で一任、内島君と私は9月中旬から授業に出ず、生徒会役員室で頭を捻りました。プログラムは岩中以来のものが言い伝えであり、それに「自転車遅乗り」、「借り物競争」、「パン食い競争」、なども加えました。昭和25年暫く日本社会にもパンが出回り始めました。幸い一年生に駅前通りの桔梗屋の息子がおり、彼に依頼しました。また「借り物競争」は女性を連れて来るものがあります。女性をどうするか?お姉さんのいる生徒に当日参加を依頼し

ました。 Tumbling (岩中時代から名物種目・別名高等器械体操・組体操のこと) 3年の体育部長(バレー部主将・柳沢康夫君)が責任者となり、1・2年生を指導しましたが、事件が起きました。湖沢利一君(小学校時代の仲良し)から「小山さん、えらいことになるぜ!昨日集合が遅いということで、1・2年生男子全員が土の校庭に正座させられた。町田晴夫君が怒って『昨日までは練習に出ようと思っていたが、今日は俺が指揮して1・2年男子は全員参加せず、相生の松の処に集まる。正座は暴力である。許せない!』と。生徒会長これは困りますよ!。私はよし!町田君と腹を割って話をする。」と決意し、町田君と直談判をした。「悪かった、俺が責任を持つ。今日から俺がずっとグラウンドで見守る。体育部長に正座など絶対にやらせない。相生の松でのゼネスト(ゼネラルストライキの略、ここでは全員ストの意)は止めてくれ!」。こちらも全力で説得した。町田君は岩高の歴史でも現役の東大合格は後にも先にもないという秀才です。こちらの誠意と意気込みを理解してくれて無事当日に至りました。

次のことも付記したいと思います「平和塔(世相を反映した種目名ですね)」で1年生のケガがありました。

5、6人肩を組んで大きな輪を作る、その上に3人で小さな輪、更にその上に1年生の軽い生徒が乗る。しかしその生徒が最上段から転落して骨折しました。役員の内島君と私は慌てました。しかし内島君は沈着でその生徒の自宅へ電話して父親に自転車で迎えに来てもらいました。鎖骨骨折の重傷でしたが教師側は一切関わりなし、民主主義に自信のない教師たちは生徒に任せっぱなしの無責任体制でした。

これも私が後になって意識したことですが、長い間の軍国主義体制で生きて来た教師たちが、民主主義下の自主と責任について学ぶ機会が戦後になってからも与えられなかったので無理もないことでした。兎に角、運動会は無事終了しました。

・文化祭のこと

11月3日の文化の日にやるのが当然と学校側から来ましたが、運動会程の忙しさほどではありませんでした。プログラムといっても各文化部は日頃活動の成果を発表することが主でした。ただ合唱班、演劇クラブなど体育館を発表の場とするものについては執行部でローテーションを組みました。最後は9時頃終了、内島君と私はいつもその後に見回りと消灯の役割がありました。当時は当直の教師もおられた筈ですが、私どもが校舎管理の役割を負っており

ました。学校を出るのは9時30分頃、当時軽井沢町からの内島君は岩村田に下宿しており、毎晩彼からオリオン、カシオペアなど星座の名を教えられ、また文学好きの彼から日本の小説の中では何と言っても「源氏」だ。など大変教えられることが多かった秋の夜の帰途でした。内島君とのことをもう少し述べると、放課後も10月半ばを過ぎると4時30分頃には冷気も増し、薄暗くなり、どこそこ寂しい感じが出てきました。

連日放課後は内島君と二人で校舎2階の生徒会役員室であれやこれやの雑務をやっておりました。そんなある日、役員室から下を見ると仲間数人が校門を出て行きました。私がい「いいな！彼らは帰って勉強することとができて」と。内島君はキリッと私を見て言いました。「俺は軽井沢だから浅間（役員室から良く見えましたが）には右から登る。お前はここから小諸に出て左から登ればいだろう。群馬の衆達は裏の鬼押し出しを越えてトンビ根に来る。浅間の登り方だって色々ある。あいつらは生徒会の仕事がないのだから早く帰ってどんどん受験勉強をやればいい。俺とお前が文化祭を放り投げたらどうなる？俺たちは何としてでも11月3日を突破しようじゃないか！」彼の言葉に私は胸の内から「ウーン」と素直に応じられませんでした。し

かしその正論には反論できず無言でした。しかし、生涯この言葉は私の心に残りました。山を登る道は人によって異なると良い。教師になってある学校の離任式にこの話をしましたが、なかなか好評でした。

内島隅一君からは色々教わりました。翌春現役で彼と私、甘利君の3人で東大受験し全員out。その次の春に甘利君と私はpass。内島君は失敗して早稲田法学部へ行きました。しかし文学の才能はそこで開花し、在学中に短歌で宮柊二の門下生となり、歌集も出しました。しかし佳人薄命といましようか50歳で舌癌のため他界しました。こうして内島君のおかげで文化祭もどうにか済みました。しばらくして生徒会長

2、後任の生徒会長選挙で一波乱

11月末、新生徒会の会長選挙を実施しましたが、この時も立候補者はなく榎沢栄子さんが当選しました。大変頭の良い方で真相は分かりませんでした。当選の危険を感じた彼女は事前に「私に投票しないで下さい」と教室廻りをしたことが逆効果になったとの話も聞こえてきました。選挙結果を掲示板に掲げて暫く心安と安堵していたところが、翌日生徒会顧問の古越先生から呼び出しがありました。「女子が会長では困る。男女共学のまだ2年目では難しか

うと、校長先生から選挙のやり直しをするように」とのこと。生徒会の規約があったかどうかは別として、校長の拒否（保留）権が発動されたのです。

我々には拒否権に抵抗する姿勢はありませんでした。民主主義を是としながら、生徒会長は女子では動かないという気持ちで内心に強くあつたのです。Genderfreeからは遠い距離にいたのです。内島君とはどんな話をしたのか記憶にはないのですが、男子の誰に会長になって貰うかを熱心に話したのは、内島君も私と同じ考えであつたからでしょう。

臨時生徒総会を告示した後、当日の説明理由を懸命に考えました。当日はもうヒットラーやどこやらの元首相と同じです。他から見ても如何に誤りのある主張でも、本人が正しいと信じ、それを力強く訴えれば聴く方は意外に頷いてくれるのです。当日一人の反対もなく選挙のやり直しが承認されました。翌日2年生の塩川晨君（電機大 日本電子科学）を二人で説得「当選したら、やっつけくれ」と。そして内島君と手分けで18クラスを10分の休み時間を使って廻り、選挙運動をしました。気持ちの悪いほどの成果でした。塩川君は圧倒的多数で当選しました。11月末に私の生徒会長としての仕事は終了しました。

旧岩中を巡る周一と罇堂との散歩⑥ 岩村田の歴史から(その一)

田中 申明
(昭和48年卒業/川口市在住)



【(前号迄の概略) 戦後を代表する知識人のひとりである加藤周一(T88~H20)の半自伝「羊の歌」(岩波新書)の中に、史上最多25回の当選回数「憲政の神様」と言われ、また反軍国主義の軍縮論者であった尾崎罇堂(行雄・安政5~S29)の孫が旧岩中の庭球班の主将をしており、その孫との交流が記述されていた。筆者は罇堂の孫や周一及び罇堂の足跡や周辺を調べて拙文を書いてきたが、数年前から岩高百周年誌の編纂に当たったので、今回は旧岩中の開校迄の興味深い事を述べた。】

前回は旧岩中の開校前後の経緯を調べて(①当時唯一の町立の中学と女学校を有していた町②野沢との県立中学誘致に惜しくも敗れた③様々な経緯にて県下18校中学の内14番目に設立された④町立として当時の岩村田町民の負担は大きなものであった等)述べた。その後更に岩村田や佐久の歴史を深く調べるとダイナミックで極めて面白く驚かされた。今回はかいつまんで幾つか興味深い事を紹介したい。なにぶん些かマニアックな筆者にとって興味深いことであり、範囲が岩村田よりかなり広過ぎてしまった事や、時代と対象が交錯してしまつた等のご容赦願いた

い。更に昨年述べた通り高校卒業後佐久を離れた浅学菲才の歴史の素人として幾分勇み足気味の仮説・記述等がありますので、ご意見・ご指摘やお叱り等は謙虚に承りたく思います。

(1)交通の要衝として

本州のほぼ中央にあるこの地は、旧石器時代より近くの和田峠の黒曜石(研磨して刃物等)が青森から奈良辺りまで広がっていたことから分かるように交易・交流の要として重きをなしていたことは推測できる。岩村田付近には、古代より大和朝廷の東征ルートとして「古東山道」が、また律令以降は都と東北地方(陸奥・出羽)を繋ぐルートの「東山道」が近くを通る交通の要衝であった。江戸期には笠取峠から岩村田を経て碓氷峠に至り東西を結ぶ「中山道」が整備され、岩村田宿等が置かれた。中山道は東海道に比べ長く、険しい山道もあったが、東海道は大きな川で船の使用が許されない「川止め」や幕府の取締りが厳しかったので、相応に賑わっていた。さらに、岩村田と葦崎間の甲州街道佐久脇往

環も江戸時代に整備され、また近くの追分から善光寺・越後・北陸に通じる北国街道があり、まさに東西南北等が交差するところであった。人口・産業の集積が少ないこの地域は信州のいわゆるハブ機能はなかったが、江戸(東京)通じる玄関のようない位置づけで比較的早く技術・思想・産業・疾病等様々なものが伝播して来たようである。

このように交通の要衝であった岩村田は、古来からではあるが、とりわけ幕末から明治初めにかけて一部後述する和宮降嫁、水戸天狗党、偽官軍、朝廷東山道軍、秩父事件等様々な事件に晒されて動揺しつつも新しい息吹を吸収していった。

一方、要衝の機能に伴って人々がどう変わって行ったかについては興味深い所である。奈良期頃からの勅使牧で最大と言われた望月の牧には馬と一緒に朝鮮半島からの渡来人もいたようである。

日本人は先住の縄文人(アイヌ系に近いと云われる)とその後の渡来人(弥生)の混血といわれるが、その濃淡による気質の地域差を筆者は実感している(東北に6・5年間・関西に3・5年間在住、出張・友人は全国)。

〈寄り道〉

①東西の商売の違い
西の笠置シヅ子、吉本興行の切替えの早い明るさと自己表現、如才なくも抜け目なく、現実主義で商売の上手い近畿・四国・中京。一

方東北では野球の大谷・佐々木・落合等のように身体的に恵まれた上にひた向きな努力によりパフォーマンスでは極めて優れるものの、緻密な連携プレーは苦手なようではなかなかな甲子園で優勝出来なかった。商売では真面目で開発・技術力が高いものの事業化・市場化に難があるようで東北地場企業の苦戦が目につく。実際に筆者は妻の実家がある仙台へはほぼ毎年を訪れているが、年々立派になる中心地で多くの老舗が淘汰されている一方、中央企業の跋扈が目立つ。これは全国的な傾向であるが、それが東北一の都市で地場の大スーパーや老舗ホテル、大規模書店もないし、地場パートも生き残った1社だけとはいくら支店経済都市とはいえないもの寂しい限りである。最近全国レベルへ至つた少ない東北企業のアイリスオーヤマのオーナーは韓国系在日三世で大阪育ちである。

東北では実際の商売でも市場で切磋琢磨するより業界内で協調し行政等の調整を待つ内部の論理を好むようである。閉鎖性があり、変化・変革を好まない旧守姿勢が目立つ積極性・したたかさ・消費者を観つめる姿勢が足りないことは肌で感じる。

しかし多くの物事に正負の両面があるように、東北人のこの争いを好まず、内向きで慎重で真摯、且つ理念的で深く掘り下げる気質は別な局面では強力な力を発揮出

来るであろう。今後技術力が重要になる流れの中、研究力に定評のある東北大を中心にした息の長い粘り強い取組の成果が上がり新しい経営意識での飛躍の可能性を感じる。

ではこの佐久地域に目を向けると、お笑いがあるとは思えないが、理念重視と現実主義は中間だが、理屈っぽく生真面目な分理念寄りか、実際に商売はしたことがないので分らないが、相応なしたたかさはあるようである。筆者の実家のある中込の街がなす術もなく衰退する状況を見るとやはり東西中間でも東寄り位置であろうか。しかし筆者は佐久での多くの知見はないが、軽井沢の上質な客層ニーズに沿った高品質で地に足の着いた取組を続ける星野リゾート（元々は岩村田）やスパーツルヤ（小諸）のビジネスモデルは今後も期待できると思われる。

もつとも最近では商売が上手い筈の関西の住友系やかつての大家電メーカー等の伸び悩みをみると、過去の成功体験に捉われてか、現実主義に徹し過ぎてか、根強いオーナー性の影響か視点が短くない長期ビジョンに欠けて停滞を招いているように見える。目先の商売の上手さが必ずしも長期的な繁栄に繋がらないよくある陥穽のようだが、どのように克服するか興味深い所でもある。

② 商売の地域差の要因

以上筆者が長い営業経験で抱き

続けた「あくまで現在の商売という一側面の地域差」であるが、その要因の風土・歴史による説明は専門の方へ任せるとして、ここでは最近の遺伝子分析の発達から以下のような裏付けとも思われる事実が出て来たので紹介する。



予想通り東北と南九州（沖縄は最も濃い）が濃く、四国・近畿・中京が薄く、上記の意味での商売の上手さと驚くほど一致している。大陸から遅れて来た弥生人に先住の縄文人が日本の南北に追いやられた状況は一目瞭然となる。信州

は南北や東の隣国に比べ薄いのは、やはり東山道や信州各地の渡来人の関係であろうか。信州全体としてはこの濃度だが、更に濃度の濃い群馬が東隣に控える佐久地域の濃度がどの位か？興味深い所であるが、今後の研究成果を待ちたい。朝鮮半島に近い九州北部や島根が意外と濃く、幾分離れた四国が薄いのは更に説明が必要であるが、特に愛媛のユニ・チャーム・大王製紙・今治造船等の商売の上手さとバイタリティー、したたかさを実感している。

(2) 用水／新田開発と大地主層

江戸開幕前後から岩村田藩の成立に至る17世紀に水のない火山台地に大幅な用水路・新田開発が行われた事により大きく変わっていった。

この時期は各地でも広く新田開発はされたようだが、当地の常木用水、篠沢用水、沓掛用水、御影用水、五郎兵衛用水、八重山用水等々。多くは主に農民が築いたものであるが、元々は武田氏の遺臣を主とする土豪・地侍のような力と財力・統率力を持つ有志であったと思われる。

主に水を求めての北佐久の用水工事、一方南佐久では千曲川等の洪水を防ぐ治水・灌漑や池沼の干拓を通して新田開発は行われたようである。

当時の資料を見ると農民が取組む様子はあたかも今日のベンチャー企業のように用水／新田開発を通して一

旗揚げしようとの意欲が窺える。その結果であろうか新田の開発者は地主となり、後に佐久を特色付ける大規模な地主制の背景の一つとなったように見える。

こうして佐久は米どころとなり人口も増え、余剰米は上州方面等に送られた。特に上州西部は佐久の米に依存し、飢饉の折は度々米を求めて佐久に乱入した。また今日まで隆盛する酒造業を生み出した。佐久には農民等による起業の造酒屋が多数（現在14蔵）あるのも珍しい。良質な米・水等があるにせよ、全国的に京都・長岡（16蔵）に次ぐ位のものであろう。

交通の要衝として信州の玄関となり馬士（運送業）を生み、元禄（18世紀初）頃には積み荷の帰りの日用品は広く流通し、問屋・仲買・酒造業等、商工業が発達していった。

では武田の遺臣と新田開発と大地主がどのように繋がるかについては一部では確認されたが、更に調査が必要と思われる。しかし明治期以降この大地主／造酒家層は産業（蚕糸業等）・文化・政治・学問等でのこの地方をリードし、商業・金融業（八十二銀行の前身の第十九銀行等）を県下に先駆けのように発達させた。また広く周辺地域でも長野電鉄、神津牧場等を開花させて行なった。

(3) 江戸期末迄の岩村田の概要

岩村田は律令下の莊園の大井庄として8世紀奈良期初に記録されている。平安期中期の延喜式には勅使牧

(軍馬飼養)の望月の牧は信濃の中で最も多く著名であるが、その騎馬武者達は源平期にも活躍し、その在庁官人達は一部武士となり豪族の滋野、望月、真田氏等にまで連なる事となった。

鎌倉期初(1186年)源頼朝の武將小笠原長清の七子の朝光は承久の乱の戦功により地頭となり大井姓を名乗り豪族として大井城(王城公園)に居した。岩村田は大井氏治下で開発が進んだ。

しかし大井氏宗家は戦国期の15世紀末には埴科郡の大豪族の村上氏に攻められ滅びた。その後まもなく村上氏も敗れ佐久地方の割拠していた小豪族は全て武田氏に服した(約35年間)。このように戦国期末まで統一されず多くの小豪族が割拠し、中世的社会経済が混乱したまま後の幕藩体制に移行した形となった。

武田氏が滅亡し、本能寺の変で信長が斃れた後、この空白地に北条氏が侵入した。武田の遺臣の依田(芦田)・信蕃は徳川・真田と結び北条を駆逐し、古くからの豪族(伴野氏等)を滅ぼし、佐久一円を平定した。信蕃はその過程の岩尾城攻めで落命したが、次男の康勝が継ぎ家康の関東移封により一族郎党を随従させ上州へ移り藤岡藩主(6万石)となった。佐久からの唯一の大名と思われるが、同僚と争い改易・蟄居となり、後に家康次男の結城(松平)秀康の家臣となり、越前福井藩(50万石)の重臣となって芦田(蘆田)姓で子孫は維新後迄続いた。同藩は幕末藩政改

革を行い、多彩な人材を輩出し、維新時には大きな役割を果たした。

(4)岩村田藩

多くの信州の小藩と同様に江戸中期(1703年)に譜代の内藤氏が入封して岩村田藩は出来た。内藤氏の祖は10世紀に平将門の乱で戦功のあった藤原秀郷とされるが、戦国期には西三河の国人衆に入っていた。その後松平(徳川)に服従して幕府を開く過程での功績から江戸期初には延岡(宮崎)、村上(新潟)、安中(群馬)、高遠(長野)等で藩主となっていた。その内高遠藩主(3・3万石)忠政の江戸下屋敷の一部が甲州街道の一番目の宿場内藤新宿であり、それが今日繁華街の新宿となっている。その忠政の四男正次の子正勝は大身旗本であったが、大阪定番での働きが評価され常陸高森藩主となった(最初は埼玉県赤松が居所であった)で赤松藩との説もある)。その子正友の代に入封して、岩村田藩(丸子四村含む)が出来た。それが維新まで七代続いた。

岩村田藩内藤氏はその経緯から佐久での地盤は弱く、城主も江戸勤めが長く領民にとつて縁の薄いものであった。家臣も少なく、また権勢も財政



中山道と岩村田宿

面でも乏しいものであった。譜代として藩主は幕閣の相応の要職に就いたものの、財政的な厳しさと安易に領民に負担を強いる弥縫策は領民の不信を招き童唄にまで揶揄されるものとなった。

最後の藩主内藤正誠は王政復古後の徳川追討令に慶喜側近であったこともあり速やかに恭順の姿勢を示さなかつたために謹慎の沙汰を受け、関東・北越出兵を命ぜられた。岩村田藩一小隊は戊辰戦役中、千葉県の流山で幕府軍の元新選組隊長の近藤勇を捕らえる功績を上げた。

(5)藩校と平田国学の広がり

1864年に設立された岩村田藩の藩校達道館で目を引くのは通常は儒教中心の漢学を学ぶのだが、神官等から平田国学を中心とした皇学(国学・和学)を一日おきに学んでいたことである。

平田国学は草莽(身分の低い者)の国学と云われ、儒仏的な規範主義を離れ日本古来の情緒性(もののあわれ)を貴ぶ古事記・源氏物語等の古典に立ち返った神道の学問である。同派は封建的な身分制度を認めず天皇(一君)と平等な臣民の尊王思想を持ちながら、国家を憂うる志士の思想でもある。信州の同派人数は全国一であり、伊那・筑摩地方が多いが佐久でも広がっていた。しかし藩校で正式教科となったのは特異なケースと思われる。ここは既に王政復古後の明治3年であり、前述のように藩主は一時佐幕の疑念から謹慎

の沙汰を受けた事と皇学教授角田忠守(近津神社)の次男の忠行が脱藩して勤王の志士として

維新時に活躍して当時明治政府の要職に就いており、藩主と頻繁に連絡を取り合っていた事から理解すべきと思われる。



平田国学の祖：平田篤胤

平田国学が盛んな佐久へ大政奉還後の慶應4年(1868年)朝廷軍の先発隊を名乗る偽官軍(赤報隊/相楽総三一派)が佐久を通過しようとして撃滅された。彼らは相良を初めてとして平田派の影響を受けていた。同隊の粗暴な振る舞いに反感を持った小諸藩、御影陣屋は正式な東山道総督府の命を受けて厳しく追討したが、岩村田藩のみが融和的な姿勢で対応した。この事を非難する向きもあるが、筆者には平田派シンパの故と思われる・・・

赤報隊には多くの平田派と思われる佐久人(34人)がいた。その中に相楽とともに無頼の徒として死罪・晒首となった尊王志士の春日村出身桜井常五郎等もいた。偽官軍(赤報隊)の相楽は元々大政奉還後でも幕府が権力を握っている中、「倒幕の密勅」を受けた薩摩西郷隆盛の指示で薩摩藩邸を拠点として関東・江戸の擾乱を企て幕府を挑発して、江戸薩摩藩邸の焼討事件を引き起こし、倒幕の戊辰戦争への契機を作った。しかし、その露呈を恐れた西郷に見捨てられ消されたとの説もある。

相楽は長く偽官軍の汚名を着せられたが、昭和5年に名誉回復され五位を贈られ、靖国神社にも合祀された。佐久の桜井等に関してはその程度相楽と志と行動を共にしていたか不明であるが、名誉の回復はされていないようである。

昭和4年に連載開始の島崎藤村の最後の長編「夜明け前」では実父（島崎正樹）が同じ中山道沿いの名家に生まれ、平田国学を学び維新前後の天狗党、赤報隊等に翻弄され夢を抱きながら新時代に期待したものの、維新後の社会の近代化に適応できず挫折して遂に狂死するまでを描くが、それと同様に多くの草莽の志士達は維新後の新体制に付いて行けず、同様な思いとなったであろう。

同派は維新後も攘夷を貫こうとし新政府の文明開化・欧化路線と軋轢が生じ抑圧された。前記の角田忠行も一時は皇学所御用掛として政府の教育施策を預かったものの退き、最期は熱田神宮大宮司で終わった。

一方、国学には天皇の威光を海外・世界に広めるべきとの思想があり、それが昭和前期の対外拡張主義に利用されたようである。

(6) 自立の風土

長野県下では実に多くの反骨の思想家・実践者・運動等が多く、却って佐久は少ない方にも思える（といっても全国的には多い方であろうが）。しかし自立心は強く、一方的な権力に対する抵抗の形跡は少なくなかった。幾つかの特徴的な事例を

挙げてみたい。

①本校の設立そのものが県立で難しくなった状況下、「町立」として住民自らの手で取組んだ経緯がある。更にその前後を調べると当時は行政施設へ住民が土地・建物の負担をして誘致して、それが町の繁栄に繋がるとの意識が一般的であった（それ故に苛烈な誘致合戦を招いた）。そのことは本校創設2年後の大正15年の岩村田警察署（同時に中野・屋代）の廃止反対運動に際して「オラホの寄付で建てた警察署を勝手に潰すな！」との経済的な危機感を持った広範な住民が過熱し大衆運動となり刑事事件にも至り、結果警察署は翌年復活されて強引知事等を依頼免官に追い込んだ事からも窺える。この事件はその後全国的な公選知事論へのきっかけとなった。ちなみに厚生事務次官から長く内閣官房副長官（在任・1996-2003）を務めた古川貞二郎氏は手記の中で「旧内務系官僚（総務省・警察庁・厚生省・国交省等）の間では地方県への出向で長野県・岡山県は鬼門であった」と書いている。鬼門となった所以のひとつはこの事件であろう。その県民性云々は別途で・・・



岩村田警廐の碑

②昭和28年初めてGHQの米軍演習

地要求を撤回に追い込んだ浅間山米軍演習場反対運動は全国的にも注目を浴びた。

米軍は朝鮮戦争で冬季山岳戦が不慣れで中国軍に苦戦した為、再発に備えての要求であった。軽井沢町・北佐久郡のみならず保守政治家も含めた県民挙げての住民の反対運動を繰り広げ撤回/勝利へ導いた。



浅間山米軍演習場反対運動

一方、同様に朝鮮戦争の特需を見込んだ硫黄鉱山開発の動きに対しての鉱害を懸念する八ヶ岳硫黄採掘反対運動も広範な住民運動が行われた。結局当該地区は鉱区禁止地域に指定され勝利となった。

③政治・思想面を考えると、現在の政治地図を見てもリベラルな気風は感じられるが、維新以降の自由民権運動・政党活動・小作闘争・社会主義運動等は活発なものであった。

自由民権運動では自由党（板垣退助、のちの政友会の系譜）は長野師範（当時の本県最高教育機関）で盛んであったようである。佐久に広まっていた。同師範出身の本校創設の佐藤寅太郎の名前も見受けられる。また、困民党騒動（自由党系）等の秩父の影響が南佐久での根強さが目立つようである。一方大正8年設立の旧松本高校で

は社会主義思想が盛んであった。佐久病院の若月元院長や松高先輩で佐久穂の名家出身で若月を佐久に招いた小宮山新一（社会医学）。小宮山の妹のひでは戦前共産党書記長の田中清玄と結婚し、その次男の田中愛治は現早稲田大学総長となっている。自民党から官房長官等になった井出一太郎は小宮山の従兄弟であるが、松高時代の左翼の噂を表面的には否定していた。先日元官僚の次男の方に訊いたところ「あの時代は皆そうだった」と肯定的であった。

この地方は中世以降一時期を除き一円を支配する強力な領主も権力もなく、有力な農民達の一部は江戸中期以降に新田/酒造等や明治期の地租改定等を通して県下でも特異な大地主となっていく。高い自立意識で前述のように社会・経済・文化・政治を主導した。有産・特権・知識階級の彼らの一部は国家・社会を憂いながら行動を起こし、やがて一部は権力体制の中に組み込まれたり、一部は在野で活動したようである。

●大きく「岩村田の歴史」と掲げたものの、寄り道が多くを割いてしまっていました。以前から個人的に気になっていた事でもあり纏める良い機会でありました。また思想・政治の系譜等はまだまだ浅く加筆が必要と思われます。次回以降はもっと真面目に創設者の佐藤寅太郎について調べてみたいと思います。

— 砧公園から世田谷美術館 — 望月廣江 (昭和48年卒業 / 世田谷区在住)

砧公園

四季折々のファンタジー

自宅から歩いて20分ほどの場所にある砧公園は、何と東京ドーム8個以上の広さです。春は満開の桜で埋めつくされ、たくさんの家族連れが思い思いの幸せな風景を描きます。木々の間からのそく夏空の青さは、故郷の佐久平を思い出させてくれます。

秋と言えば、どんぐりに松ぼっくり。たくさんの自然の恵みを受けて、子供達の元気に拍車がかかります。この時期、私は恒例の銀杏ひろいに。友達が教えてくれる秘密の場所で収穫を楽しみます。

静かな冬は、限りなく穏やかで優しい季節です。ジョギングに散歩、サイクリングコースを走れば心も体もぼかぼかになります。



春夏秋冬、幼い娘達が遊んだ大好きな桜の木。

世田谷美術館

見て、観て、感じて、ときめいて

砧公園の中にある世田谷美術館。丸、三角、四角の形状が生かされた建物は、日本を代表する建築家、内井昭蔵氏が手がけています。

折しも「美術家たちの沿線物語」を開催中。世田谷区の沿線には沢山の芸術家が住んでいます。その特性を生かし、沿線に住む芸術家の作品を一堂に集めたユニークな展覧会です。数年に渡り路線展開し、今回は完結篇となる「小田急線篇」を取りあげています。

そこには、命の輝きと燃焼があり、渾身の想いに圧倒されました。平塚らいてう、谷内六郎、横尾忠則一、自宅近辺に在住していた芸術家の多いことに改めて驚きました。8月には、マルク・シャガール展が開催予定です。



内井昭蔵氏は、身延山久遠寺宝蔵も手がけている。

区民ギャラリー

家族で力を合わせた「ファミリー展」

世田谷美術館の1階にある「区民ギャラリー」は、自由な作品発表の場として人気です。我が家では14年前、家族で「ファミリーアート展」を開きました。夫は趣味の水彩画、長女はコラージュ、次女は写真とポエム。私は短文を主に、娘とオリジナルポストカードも制作。傘30本に絵もつけてみました。

会場は思いがけず、懐かしい再会の場となり、沢山の人が駆けつけてくれました。感謝と感動のドラマチックな一週間は夢のようでした。

瞬間に歳月は流れ、娘達は母に。家族で目標に向かい、心を合わせたあの温かい日。思い出は色あせない力となっています。



5月 テーマ：やさしい
胸がいっぱいになるとき
心に力が湧いてくる

『岩村田高等学校百年誌』販売予約のご案内

岩村田高等学校100周年記念事業記念誌刊行委員会

岩村田高等学校は、本年度開校100年を迎えることになりましたが、同窓会では100周年記念事業として「百年誌」を編纂し、下記のとおり販売することになりました。内容につきましては、学校の通史に加え、同窓会やPTAの歴史、会員の回想や各種資料など幅広く掲載しております。また、編集にあたりましては、できるだけ当時の写真を挿入して、見やすい紙面に心がけました。

つきましては、ご購入を希望される方は、下記の通り予約申し込みをいただきますようお願い申し上げます。なお、本事業に **1万円以上のご寄付** をいただける場合には、一冊贈呈させていただきます。

記

- 1 販売価格 4,000円(送料別) 代金納入については、配本時に改めて通知いたします。
- 2 刊行予定 2025年5月～6月
- 3 予約申し込みの方法

◎お名前・住所・連絡先電話(自宅・携帯)卒業した年、注文冊数をお知らせください。

①Eメール 上記の項目を入力して送信

s-gansou100@ce.wakwak.com 同窓会事務局

②FAX申し込み FAX0267-78-3798 上記の項目を記載して送信

③ハガキ申し込み 〒385-0022 佐久市岩村田1248-1 岩村田高校同窓会事務局

4 その他

寄付金の振り込み先 八十二銀行岩村田支店 普通預金 口座番号 946721
長野県岩村田高等学校創立100周年記念事業実行委員会
振り込み手数料を引いてお振り込み下さい。

問い合わせ先 同窓会事務局 電話 0267-78-3797 (月・水・金の午前中)



「装画・柳沢正人氏 題字・神津武士氏」

ウォーキング(芝公園・三井倶楽部) ランチ・慶應等の報告

まだまだ暑い9月14日(木)に挙行致しました。

現執行部では初めての企画でしたので、多くの参加者を募ろうと普段なかなが行けない所としたのですが、御覧のとおり少数になってしまいました。

急遽一部外部の人へも声を掛けての実施となりました(企画は難しいですね・・・)。

・10:00 地下鉄芝公園駅に集合
芝公園散策…花壇が綺麗でした。



ついでにお隣の名刹芝増上寺(徳川家の菩提寺)にもお参りして、歴代將軍等の立派な靈廟も観てきました。

まじか見る東京タワーも圧巻でした。(幼い頃は憧れたものでしたね)

・12:00 綱町 三井倶楽部 昼食ランチ
コース
フォーマルで暑い中ジャケットを義務付けされましたが、流石に美味・・・堪能しました。

食事の後はその見事な日本庭園で腹ごなし。
ここは戦前三井財閥の迎賓館であったそうで立派なものでした。

今時、都心の一等地に広大な敷地に会員制クラブとしていつ迄保つか老婆心ながら心配になりましたね。

・14:00 三田 慶應義塾



直前に甲子園で優勝した慶應高校は横浜/日吉で三田には慶應女子高校でした。

・15:00

田町駅前の蕎麦屋にて生ビールで乾杯!
猛暑のウォーキングで汗を沢山かいたのでとても旨く、会話も弾んで楽しいひとときでした。

田町駅で解散
結局食べたり呑だりが多かったのですが、適度な学びと相応な運動でその晩はグッス



リ・・・
幾分胃に負担にいったものの楽しかった一日でしたが、次回以降はもっと涼しい頃が良いとの反省でした。

今年の企画は別紙に案内していますように10/5・6の百周年コンサート・祝賀会への一泊佐久へのツアーですので奮ってご参加下さい。

来年は横浜の名園三溪園と中華街を考えていますが、いい店等の情報やご意見をお寄せ下さい。

歩いて学び、食べて呑んで語り合う・・・
この企画には是非ご参加下さい。

卒業生の皆さまへ 東都岩高会のご案内



ご卒業おめでとうございます。

東都岩高会は岩村田高等学校同窓会の関東地区（一都六県：東京、神奈川、埼玉、千葉、群馬、栃木、茨城）の支部組織で、会員（卒業生全員）の発展に資する為、各種の活動をしております。主な活動は下記の通りですので、気軽に参加して頂きたいとお待ちしております。

①会報の発行と送付先について

- ・年1回5月頃に送付して総会&懇親会のご案内や本会の連絡事項及び皆様のご意見・情報・作品の交歓の場となっています。皆様の参加をお待ちしています。
- ・つきましては皆様への**新住所が決まり次第、以下のアドレス(又はQRコード)のHPへ卒業年度、お名前、住所を記入の上、送信願います。** gansou100.jp/touto



②総会&懇親会について

- ・6月23日(日) 11:00～受付、11:30～ 2.5h程
- ・場所：銀座ライオン7丁目店 6F クラシックホール
銀座大通りの南側、銀座シックスの隣の写真のようなクラシックな建物
地下鉄銀座線 銀座駅徒歩3分、JR有楽町駅 徒歩7分、JR新橋駅徒歩7分
学生(予備校・専門学校・院生含む)は無料ですので、～6/10に申し込んで下さい。
- ・申し込み先：tanaka-nsym@s5.dion.ne.jp
090-7171-8441 田中、080-7021-3097 小林
- ・幅広い年齢の多様な同窓生が集まります。懐かしい友人や教職員との再会や、新たな繋がりへの巡り会いや、勉強・仕事・ときめきの出会いがあります。
- ・講演：寺尾文孝様(昭和35年卒業) テーマ：「闇の盾」出版にあたって
- ・議事は早々に、懇親会では**美味しい料理と生ビール・ワイン(未成年にはノンアルコール等)を堪能しながら、たくさん人達との交流をしながら抽選会や音楽を楽しんでください。**



③相談室のご案内

- ・故郷・肉親から離れて、初めての都会での一人暮らしは何かと心細いことと思われま。皆様の抱える問題や悩み事の多くは私達熟年会員が通り過ぎて来たことと重なります。**熟年会員の経験・知識・人脈等を活用して親身に皆様の相談に乗り、一緒に考えたいと思います。気軽にお声を掛けて下さい。**

◆相談機能

- 主に i) キャリア・進路相談：ご希望に沿い、そのご希望について知る限りの実態と適性への見解、そのご希望を叶えるには今何をすべきか？どう取り組むべきか？
- ii) 生活相談：住宅、パートナー、人生等

◆当面の相談スタッフ

現・元会社員、役員、経営者、税理士、弁理士、ジャーナリスト、元新聞記者、元国家公務員、元地方公務員、元教師等

◆窓口

事務局 田中伸明(副会長、S48年卒) 〒332-0012 埼玉県川口市本町2-12-20-1001

携帯：090-7171-8441 メールアドレス：tanaka-nsym@s5.dion.ne.jp 尚、個人情報を守秘致します。



総会参加卒業生 コメント

熊谷 恒美

(R4卒 / 東京都内大学 1 年在学中)

今回参加して、幅広い職業の方々とお話しすることができました。将来の職業がまだ定まらない中色々なことを深く知ることができる機会でした。さらに、友達にも会えて大学のことや生活のことなど話せてとても良かったです。東都岩高会総会は人生の先輩方と交流ができる貴重な機会です。ぜひ皆さんも参加してみてください。

依田 凜夏

(R4卒 / 東京都内大学 1 年在学中)

母校岩高同窓会の色々なことを知ることができ、また先輩方との繋がりができるいい機会となりました。そこでは多くの人と会って話すことで一人暮らしの不安が安心に変わりました。東都岩高会総会では同世代を始め、幅広い年齢層の方と話すいい機会です。私は参加してよかったと思います。関東方面に進学した人は、是非参加してみてください！

岩高100周年記念式典兼コンサートⅡ等 ツアーのご案内

東都岩高会

- **佐久へ一泊二日（温泉付き）** で記念式典兼コンサートⅡに出席！
（但し、募金協力者に限る。実行委員以外の方は申し込みが必要となります）

翌日は母校・同窓会館・美術館等巡り

- **割安の費用 12,000円**（含む宴会食・朝食費用）！
一部を東都岩高会が負担（佐久往復は個人で）



- **予定**（本校の入学生は全て会員です。
時間は最終決定ではございません。）

- **10/5（土）12：30 集合**

JR 佐久平駅 蓼科（南）口階段の下へ集合。

事前に昼食を摂って、新幹線・高速バス等は下記＜参考＞

- **13：30～**

車で武道館（中込原）の記念式典兼コンサートⅡ **「森山良子」**

- **17：00～**

会食と宿泊は **「佐久一萬里温泉ホテル」**

佐久市中込 3150-1 TEL：0267-88-8338

- **10/6（日）**

AM 車で 岩高・同窓会館等の視察、美術館等の見学

PM 佐久平駅 解散

- **申し込み：6/25迄**（記念式典兼コンサートⅡ予約の関係で）

tanaka-nsym@s5.dion.ne.jp 090-7171-8441 田中

080-7021-3097 小林

＜参考＞

2月初旬の時点ですので変更の可能性あります。直前にご確認下さい。

・新幹線：東京 11：04～佐久平 12：24

・千曲バス（高速）：池袋東口 8：40～佐久平 11：29

（下落合・練馬区役所前等からの乗車も可能）

令和 5 年東都岩高会収支報告書

(自令和 5 年 1 月 1 日至令和 5 年12月31日)

収入の部			支出の部		
科目	摘要	金額(円)	科目	摘要	金額(円)
前期より繰越		1,783,143	通信費	会報発送他	283,517
年会費収入	2000円/年 129名	260,000	印刷費	会報作成費他	282,026
広告費収入	会報広告 37名	132,000	交通費	母校同窓会他	36,460
総会費収入	総会参加費 52名	416,000	総会費		394,000
補助金収入	同窓会本部より	100,000	諸会費	本部・県連・東信	65,000
会議費収入	参加者会費	0	会議費	編集会議・役員会他	87,677
受取利息	郵便貯金	9	支払手数料	入金振替手数料	23,874
寄付金	会員寄付金	1,307,000	諸経費	用紙等	16,005
合計		3,998,152	合計		1,188,559
			次期へ繰越		2,809,593

令和 6 年 1 月 21 日 会計(48年卒) 岡田 尚

監査報告

令和 5 年度の一般会計に関する帳簿、現金預金、証拠書類等について監査を行った結果、上記一般会計は適正にして正確に処理されていることを認める。

令和 6 年 1 月 21 日 監事 (37年卒) 市村 文雄 ㊟
監事 (37年卒) 柳澤 孝雄 ㊟

令和 6 年東都岩高会収支予算案

(自令和 6 年 1 月 1 日至令和 6 年12月31日)

収入の部			支出の部		
科目	摘要	金額(円)	科目	摘要	金額(円)
前期より繰越		2,809,593	通信費	会報発送他	300,000
年会費収入	2000円/年 120名	240,000	印刷費	会報他	300,000
広告費収入	会報広告 30名	120,000	交通費	母校同窓会他	120,000
総会費収入	60名	480,000	総会費	令和 6 年 6 月	500,000
補助金収入	同窓会本部より	100,000	諸会費	本部・県連・東信	70,000
会議費収入	参加者会費	0	会議費	編集会議・役員会他	200,000
受取利息	郵便貯金	10	支払手数料	入金振替手数料	30,000
寄付金	会員寄付金	200,000	諸経費	用紙等	30,000
			100周年事業	寄付金・宿泊補助	350,000
合計		3,949,603	合計		1,900,000
			次期へ繰越		2,049,603

令和 6 年 1 月 21 日 会計(48年卒業) 岡田 尚

- 34 佐野恵美子
- 33 東 小林 好子
- 32 安藤千恵子
- 31 飯塚美恵子
- 30 柳澤 節夫
- 29 中村 浩子
- 28 依田 秀雄
- 27 金澤 清
- 26 田浦 節子
- 23 高橋 和久
- 19 神津 武士

2023年
年会費納入者

《注 東都岩高会の会費は、岩村田高校同窓会とは別です》

- 42 中沢 真一
- 41 大崎 博
- 40 石井 誠
- 39 関本 好美
- 38 新海 博枝
- 37 須江 節雄
- 36 勝俣 臣夫
- 35 土屋 征江
- 34 池田 房夫

- 44 高橋 公雄
- 43 嶋田 一正
- 42 高橋 領治
- 41 荒井 伸一
- 40 本間 計吉
- 39 清原 直実
- 38 高橋 建
- 37 宮森 修一
- 36 小林 久實
- 35 常田 三雄
- 34 今井 英行
- 33 高柳 徹
- 32 高村 雅博
- 31 小林 邦美
- 30 安川 明夫
- 29 彦坂 満
- 28 山浦 一義
- 27 笹沢清二郎
- 26 市村 直幸
- 25 萩原 久男
- 24 土屋 建司
- 23 平田 静枝
- 22 杉澤 洋子
- 21 土屋 泰
- 20 佐山 順子
- 19 木内 俊雄
- 18 神津 静男
- 17 五十嵐 学
- 16 萩原 明
- 15 伊藤 教宣
- 14 依田美恵子
- 13 餐場 博章

H 63 56 55 52 51 49 富 小 田 佐 岡 西 武 望 岡 小 大 48 中 小 井 細 47 柳 46 鷺 尾 加 島 45
 山 28 高 掛 岩 飯 池 柳 大 新 太 富 清 中 藤 岡 西 武 望 岡 小 大 48 中 小 井 細 47 柳 46 鷺 尾 加 島 45
 本 橋 川 下 塚 田 沢 津 田 澤 田 田 藤 岡 西 武 望 岡 小 大 48 中 小 井 細 47 柳 46 鷺 尾 加 島 45
 貴 司 伸 文 完 義 良 正 豊 善 俊 明 仲 正 尚 篤 洋 幸 久 幸 夫 幸 裕 賢 忠 和 喜 守 卓 武 孫 智 美
 大 司 一 雄 司 則 治 弘 子 幸 彦 明 明 繼 尚 実 実 江 江 裕 二 賢 忠 俊 嗣 夫 卓 孫 恵 子 晴

39 井 38 倉 中 市 柳 37 36 34 吉 33 32 梅 長 秋 清 31 30 29 飯 中 28 河 塩 27 26 23 19 卒 寄 2023年
 出 関 新 新 市 柳 須 松 勝 池 佐 吉 東 安 藤 谷 山 水 飯 澤 中 依 河 塩 金 田 高 神 年 付 納 入 者
 袈 本 海 海 村 沢 江 山 侯 田 野 野 野 壽 根 藤 千 川 允 桂 光 塚 澤 澤 野 川 澤 浦 橋 津 昭 和 勝 仁 勝 勝 久 武 氏 名
 衛 好 隆 博 文 孝 儀 恭 子 邦 一 男 美 恵 子 昭 夫 博 巖 雄 邦 仁 哉 清 子 和 久 士 名

56 掛 52 池 柳 田 岡 西 武 48 小 井 細 47 尾 加 45 伊 荻 44 土 杉 平 市 花 高 43 常 高 荒 42 小 41 柏 40 白 赤 39
 岩 田 柳 中 田 田 井 望 林 出 谷 大 沼 川 柳 藤 原 五 屋 澤 田 村 里 村 嶋 田 橋 井 中 沢 小 泉 大 木 田 中 鳥 沼 山
 下 田 沢 中 田 田 井 月 小 出 谷 塚 沼 川 澤 藤 原 十 屋 澤 田 村 里 村 嶋 田 橋 井 中 沢 小 泉 大 木 田 中 鳥 沼 山
 文 義 良 仲 篤 洋 広 洋 二 賢 忠 卓 武 美 教 明 学 泰 子 静 直 昇 雅 一 三 建 伸 真 日 出 博 慶 永 克 和 久 政
 一 雄 則 治 明 尚 実 子 江 裕 二 賢 忠 卓 孫 晴 宣 明 学 泰 子 枝 幸 助 博 正 雄 建 一 男 博 永 己 明 雄 三

【東都岩高会会費の納入及び賛助寄付のお願い】
 東都岩高会の運営、会報発行などの経費は皆さんの会費で成り立っています
 明日の東都岩高会を創るために積極的に参加してください
 ※郵便払込口座：00190-1-544091 加入者名：東都岩高会

東都岩高会のホームページがあります

- 岩高同窓会のサイドメニューから入れます。また google 等の検索エンジンから直接「東都岩高会」と入力し検索すると入れます。
- 「総会 & 懇親会」等のお知らせ・ご案内、東都岩高会報の閲覧、同会報の送付先の登録も直接出来ます。

ご活用下さい！




●総合印刷 ●出版 ●熱気球他体験事業

恵企画
めぐみ

代表 **中沢 朝幸**
(高24回・昭和47年卒)

〒385-0003長野県佐久市下平尾1492の8
 TEL 0267-68-5433 FAX 67-6900
 Email: mgu_sky@ybb.ne.jp

東都岩高会 役員体制案

(2024年7月1日から2年間)

- 【会 長】** 小林 裕(昭和47年卒)
- 【副 会 長】** 荻原 明(総務=44年卒・新任)／大塚 忠(会計=47年卒・留任)／岡田 尚(会計=48年卒・留任)
田中 伸明(総務=48年卒・留任)
- 【監 事】** 市村 文雄(37年卒・留任)／柳澤 孝雄 (37年卒・留任)
- 【理 事】** 相澤 正昭(総務=29年卒・留任)／梅澤 邦子(総務=31年卒・留任)／長谷川允子(総務=31年卒・留任)
三戸 和子(広報=33年卒・留任)／土屋 征江(総務=35年卒・留任)／小山 駿二(総務=35年卒・留任)
井出袈裟衛(総務=39年卒・留任)／関本 好美(総務=39年卒・留任)／小林 正二(広報=40年卒・留任)
清原 直実(広報=42年卒・留任)／高橋 建(総務=42年卒・留任)／荻原 久男(総務=43年卒・留任)
栗橋 澄朋(総務=52年卒・留任)
- 【学年幹事】** 池田たつ子 (27年卒)／榎沢 利一 (27年卒)／甘利 善市 (29年卒)／柳澤 節夫 (30年卒)
大澤 繁雄 (31年卒)／渡邊 吉則 (34年卒)／松山 暁美 (35年卒)／角田 和之 (36年卒)
勝俣 臣夫 (36年卒)／大井 仁 (37年卒)／小林 昌弘 (37年卒)／須江 節雄 (37年卒)
渡辺 弘子 (37年卒)／新海 博枝 (38年卒)／山崎 浩二 (38年卒)／渡辺 善一 (39年卒)
青木 茂樹 (39年卒)／荻原 英雄 (40年卒)／大崎 博 (41年卒)／小泉日出男 (41年卒)
中澤 眞一 (42年卒)／常田 三雄 (42年卒)／荒井 伸一 (42年卒)／平田 静枝 (43年卒)
山浦 一義 (43年卒)／石井 正裕 (45年卒)／鈴木 則夫 (45年卒)／尾沼 卓 (45年卒)
岡部 勝 (46年卒)／市村 守 (46年卒)／井出 洋二 (47年卒)／岡部 正武 (47年卒)
柳田 泰敬 (47年卒)／小林 哲雄 (48年卒)／黒澤 公人 (49年卒)／宮田志づ子 (49年卒)
中澤 俊一 (53年卒)／石塚 秀樹 (61年卒)
- 【顧 問】** 秋山良治郎 (22年卒)／大井 康生 (27年卒)／中澤 巖 (28年卒)／中村 浩子 (29年卒)
生駒 友臣 (30年卒)／清水 光男 (31年卒)／秋山 桂一 (31年卒)／飯塚美恵子 (31年卒)
柏木 慶永 (40年卒)／土屋 泰 (43年卒)
- 【名誉顧問】** 高橋 和久 (23年卒)

東 都 岩 高 会 会 則

第 1 章 総 則

第 1 条 名称

本会は東都岩高会と称する

第 2 条 長野県岩村田高等学校同窓会の下部組織である。

第 3 条 東都岩高会は相互の親睦を図るとともに、健全な会の発展に資することを目的とする。

年 1 回の会員による総会の開催、会報誌の発行及び会に付随した行事等を行う。同窓会本部との連携を密にし、会の発展に努める。

第 4 条 東都岩高会会員資格

長野県岩村田高等学校 (旧制中学校、高等女学校) の卒業生であること。
東都岩高会の範囲 (1 都 6 県 = 東京都、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川の各県)

第 2 章 細 則

第 5 条 会の役員構成及び運営

イ 会長 1 名／副会長 5 名以内

会計 2 名／監事 2 名

理事 20 名以内／学年幹事 50 名以内

顧問 (会長経験者もしくは会に貢献があった者で、役員会が承認した者)

名誉顧問 (会に顕著な貢献があった者で、役員会が承認した者)

第 6 条 機関・議決

イ の議決を行う機関として、総会及び役員会を置く

ロ 総会は会員で構成し出席者の多数決をもって議事を決する

ハ 役員会は会長、副会長、会計、監事、理事、学年幹事で構成し、出席者の多数決をもって議事を決する
会長が指名した書記は審議した内容の議事録を作成する

ニ 総会は会長が招集し、毎年 1 回以上開催して次の事項を決議する

- (1) 年度事業報告及び決算報告
- (2) 年度事業計画及び予算
- (3) 改選時の会長の承認
- (4) その他本会の運営に関する事項

第 7 条

イ 役員 役員は役員会が選出する

会長以外の役員は役員会の承認を得て会長が委嘱する

ロ 任期 7 月 1 日から 2 年とする (但し再選を妨げない)

ハ 役員 の 分 担

会長 会の運営

副会長 会長を補佐する

理事 会長・副会長を補佐し担当の任にあたる

会計担当 予算の立案、会費等の収納管理、金銭の出納、財産管理

総務担当 会の運営・企画進行

広報担当 会報の発行、会の普及宣伝

ニ 年会費 2000 円

ホ 会員は会の定めた方法に従い、会費を納入するものとする

第 8 条

イ 会の運営は会長が主体になって役員会が行う

ロ 会長に不都合が生じた場合は副会長が会長の任務を代行する

ハ 役員改選により会長が交代した時は会則に則り、速やかに諸手続きを行うものとする

ニ 事務局を変更した時も上記「ハ」に準じる

ホ 諸届出、対外交渉等名称は「東都岩高会」を使用する

付 則

会設立 昭和 11 年 (1936 年) 3 月 10 日

この会則は平成 14 年 (2002 年) 10 月から施行

改正 平成 28 年 (2016 年) 6 月 19 日から施行

令和 6 年 (2024 年) 6 月 23 日から施行

東都岩高会の継続と なお一層の継続を願っています

名刺広告への協賛
ありがとうございました。

神津 武士
(昭和19年卒業)

〒385-0021 佐久市長土呂四一八

飯森 博
(昭和28年卒業)

〒359-0005 所沢市神米金三五八一五 A三〇五
電話 〇四一二九四二一六九六五

中澤 巖
(昭和28年卒業)

〒302-0022 茨城県取手市本郷五一一一七
電話・FAX 〇二九七七一七三六一九二
E-mail: naiw3419@stkkplala.or.jp

相澤 正昭
(昭和29年卒業)

〒270-1111 我孫子市古戸二五〇一二九
電話 〇九〇七二四〇一一八八八
E-mail: izawamsk@jcomhome.ne.jp

中村 浩子
(昭和29年卒業)

〒338-0837 さいたま市桜区田島四一一三一〇
電話・FAX 〇四八八八六一一七四三
携帯電話 〇九〇一七〇〇二一一四四七

生駒 友臣
(昭和30年卒業)

〒168-0064 杉並区永福一四〇〇一八
電話 〇三三三三二七二〇五

仔馬の会 美恵明
主宰 (飯塚美恵子・昭和31年卒業)

〒396-0992 埼玉県さいたま市緑区大牧一四八〇一五
電話 〇四八八七四一〇一七六 FAX/〇一七
携帯電話 〇九〇一四三七二一四一三
メール meismie-p.529@kndbiglobe.ne.jp

秋山 桂一
(昭和31年卒業)

〒272-0827 千葉県市川市国府台四一六一一七
電話 〇四七一三七五一二四五八

清水 光男
(昭和31年卒業)

〒178-0025 練馬区大泉町一三二二二四
電話 〇三三三九二二一七九三九

長谷川 允子
(昭和31年卒業)

〒270-1514 千葉県印旛郡栄町酒直台二一八一六
電話 〇四七六一九五一一三一一

東 恭子
ひがし (昭和33年卒業)

〒354-0011 富士見市水子四九七四一五
電話・FAX 〇四九一二五一一一八一

三戸 和子
みと (昭和33年卒業)

〒182-0022 調布市国領町八一一九一三二〇五
電話 〇三三三八〇一八二二

小山 駿二
(昭和35年卒業)

〒335-0001 埼玉県蕨市北町二一九一三〇一〇五

土屋 征江
(昭和35年卒業)

〒124-0022 葛飾区奥戸二一九一三二二
電話 〇三三六九七七八三五二

松山 暁美
(昭和35年卒業)

〒183-0013 府中市小柳町五一八一二二三
電話 〇四二一三六五一一四七四五

木次 雅美
(昭和36年卒業)

〒359-1153 所沢市上山口一六三三一一二
電話 〇四一二九二五一一三七九一

塚田 宣浩
(昭和36年卒業)

〒363-0024 桶川市鴨川一〇一九一三三
電話 〇四八八七六八七一七五五四

東都岩高会の継続と なお一層の継続を願っています

<p>小林 正二 (昭和40年卒業)</p> <p>〒204-0021 清瀬市元町一-八-七-二〇一 電話 〇四二-四九二-三六一八</p>	<p>柏木 慶永 (昭和40年卒業)</p> <p>〒359-1145 所沢市山口五〇六三-一-四八-一-二〇二 電話 〇四二-九二八-一五七七三</p>	<p>井出 袈裟衛 (昭和39年卒業)</p> <p>〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭五〇七七一八 電話 〇四六-八八-五五九七</p>	<p>白鳥 和明 (昭和39年卒業)</p> <p>〒140-0015 品川区西大井五-二-二-一 電話 〇八〇-四三-五二〇〇九</p>	<p>柳澤 孝雄 (昭和37年卒業)</p> <p>〒242-0005 神奈川県大和市西鶴間二-一五-一五 電話 〇四六-二七-四一九五六八</p>	<p>市村 文雄 (昭和37年卒業)</p> <p>〒362-0041 上尾市富士見二-一六-一四 電話 〇四八-七七-一九三二二</p>
--	---	---	---	--	---

<p>安川 満 (昭和43年卒業)</p> <p>〒270-0143 流山市向小金三-二-八-一-九</p>	<p>土屋 泰 (昭和43年卒業)</p> <p>〒160-0004 新宿区四谷二丁目九 サンサラー四谷四〇二 電話 〇三-五三-二一五八五一</p> <p>土屋泰税理士事務所</p>	<p>高柳 徹 (昭和43年卒業)</p> <p>〒104-0053 中央区晴海三-一-二-二-二 電話 〇三-六二-〇四一九四九一 http://www.jcya.or.jp</p> <p>NPO法人日中青少年国際交流協会 理事長</p>	<p>萩原 久男 (昭和43年卒業)</p> <p>〒182-0006 東京都調布市西つげ丘二-二〇-一八 電話 〇三-五二-八四一九五三六 http://jpva.org/</p> <p>NPO法人日本フイリピンボランティア協会</p>	<p>高橋 建 (昭和42年卒業)</p> <p>〒365-0064 埼玉県鴻巣市赤見台三-三六-一五 電話 〇九〇-九三-一八六三〇 Email:ken230518@jcom.zaq.ne.jp</p>	<p>株式会社佐々木工業 代表取締役 会長 佐々木 正行 (昭和40年卒業)</p> <p>〒385-0051 長野県佐久市中込三三六八 電話 〇二六-七七一-八二〇(代)</p>
--	--	--	--	--	--

<p>株式会社 武蔵屋 取締役副社長 小林 哲雄 (昭和48年卒業)</p> <p>〒337-0051 埼玉県さいたま市見沼区東大宮四-二九-一 電話 〇四八-六六三-七〇三七 FAX 〇四八-六六七-四一四四</p>	<p>中山 郁雄 (昭和48年卒業)</p> <p>〒135-0043 東京都江東区塩浜一-四-三-一二九 電話 〇三-五六三-三二〇七 携帯 〇八〇-四一六-四七九七 E-mail:trakyama-gyorui@ahoco.jp</p>	<p>田中 伸明 (昭和48年卒業)</p> <p>〒332-0012 川口市本町二-二-一〇-一〇〇一 電話 〇四八-二二二-二六三四 メール tonaka-nsym@sb.dion.ne.jp</p>	<p>小林 裕 (昭和47年卒業)</p> <p>〒106-0045 東京都港区麻布十番四-三-一〇-八 携帯 〇八〇-七〇二-二〇〇九七 E-mail:724qice@jcom.zaq.ne.jp</p>	<p>商品創造研究工房 おぎはら 萩原 明 (昭和44年卒業)</p> <p>〒235-0023 神奈川県横浜市磯子区森六-一-一〇 電話 〇四五-七七五-一八三八九 E-Mail:akira.ogihara@smile.ocn.ne.jp</p>	<p>大聖院 伊藤教宣 (昭和44年卒業)</p> <p>〒327-0837 佐野市植野町一八五六</p>
---	--	--	---	--	---

◆2023年～2024年 東都岩高会活動記録◆

◎東都岩高会 △岩高同窓会(本部) ◇長野県高等学校同窓会東京連合会 □東信同窓会連合会

2023年

- 1月22日 ◎新年役員会 (ばるーん)
- 2月4日 ◇新年懇親会 (アルカディア市ヶ谷)
- 2月24日 △三役会
- 3月1日 △卒業証書授与式
- 4月6日 △入学式
- 4月7日 □観桜会
- 4月28日 △春季役員会・三者協議会
- 5月1日 ◎会報第39号発行
- 5月21日 ◎役員会 (ばるーん)
- 6月9日 △三役会
- 6月9日 ◎総会・懇親会現地打ち合わせ(ライオン銀座7丁目店)
- 6月17日 △定期総会・コンサート・懇親会
- 6月18日 ◎2023年総会・懇親会 (ライオン銀座七丁目店)
- 7月1日 ◇定期総会 (アルカディア市ヶ谷)
- 7月30日 ◎役員会 (豆の家他)
- 9月14日 ◎ウォーキング企画 (芝公園、綱町三井倶楽部、慶應義塾大学)
- 9月22日 △三役会

- 11月17日 □秋季イベント (牧野記念庭園)
- 11月26日 ◎役員会 (ばるーん)
- 2024年
- 1月21日 ◎新年役員会 (ばるーん)
- 1月26日 △新年役員会・懇親会 (かつ栄)
- 2月3日 ◇新年懇親会 (アルカディア市ヶ谷)
- 2月24日 △三役会
- 3月2日 △卒業証書授与式
- 3月15日 △三役会
- 3月24日 ◎役員会 (ばるーん)
- 3月27日 □観桜会
- 3月29日 ◎女子会 (神楽坂 ルコ)
- 4月5日 △入学式
- 4月19日 △4月春季役員会
- 4月20日 ◎会報第40号発行
- 6月23日 ◎2024年総会・懇親会 (ライオン銀座七丁目店)
- 10月5日 ◎母校100周年ツアー (1泊2日)
(100周年記念事業関連は、ホームページ等をご参照ください。)

■寄稿募集

読むのは楽しい。書いて活字になるのはもっと面白い!!

本誌を会員の皆様の楽しみにしたいと考えています。お気軽に記事の寄稿をお待ちしています。

- ・ **内容**：一切問わず自由。(但し、他者へ差し障りのある場合は修正させていただきます。)
- ・ **原稿及び写真**：名前、在住地、卒業年度を明記して1,500文字が標準ですが、増減は構いません。ワード等のデータが望ましいですが、手書きに写真添付でも結構です。
尚、顔写真なしの「お薦めスポット」文字数350位も大歓迎です。
- ・ **締切**：毎年2月末日途
- ・ **宛先・問合せ**：〒332-0012 川口市本町2-12-20-1001 TEL.090-7171-8441、田中宛
メール.tanaka-nsym@s5.dion.ne.jp アドレスへデータ送信がベストですが、郵送も結構です。
尚、万が一多すぎた場合、次回以降の掲載へ回ることもありますのでご了承下さい。

パスカルはおかげさまで 40周年を迎えました



対話と創造



株式会社パスカル

代表取締役社長 井上 隆 (昭和51年度卒業)
執行役員 営業統括部長 清水 義昭 (平成5年度卒業)
執行役員 総務部長 岩下 和真 (平成5年度卒業) 他11名在籍

本社 長野県佐久市猿久保881-8
東京支店 東京都港区芝浦3-17-11 天翔田町ビル 3階 306号室